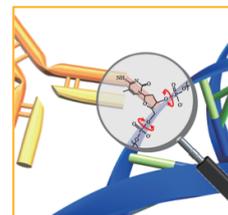
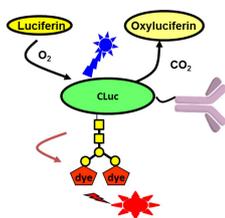


生物化学的測定の革新を目指した 産総研のアプローチ

生物化学的測定法は、生物学、生化学、分子生物学、化学、光工学、デバイス工学などさまざまな技術によって支えられており、それぞれの研究分野における技術革新が相互作用することによって、新たな展開が広がると期待されています。

国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研)はおよそ2,300名の研究者をかかえ、生命工学、材料、化学、計測技術等幅広い研究分野を所掌する日本最大級の国立研究所です。本シンポジウムでは、生物化学的測定の展開に寄与すると期待される産総研の研究者を産総研関西センターに集め、さまざまな研究アプローチをご紹介します。

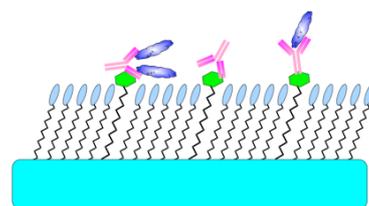


期日: 2016年(平成28年) 11月11日(金) 13:00-17:00 (受付 12:30-)

会場: 国立研究開発法人産業技術総合研究所関西センター産学官連携研究棟
第11会議室 (住所: 大阪府池田市緑丘1-8-31)

アクセスは<http://www.aist.go.jp/kansai/ja/access/index.html>参照

※産総研入構には手続きが必要ですが、事前に参加申し込みいただければ、来場時の書類記入が不要になります。



プログラム(敬称略):	
13:00-13:05	開会の挨拶 扇谷 悟(産総研生物プロセス研究部門副研究部門長、オーガナイザー)
13:05-13:35	講演1 「ラクダ科動物由来VHH抗体の開発」 赤澤 陽子(バイオメディカル研究部門次世代医療デバイス研究グループ 研究員)
13:35-14:05	講演2 「ウミホタル発光系を用いた標識酵素法の開発」 呉 純(バイオメディカル研究部門細胞マイクロシステム研究グループ 主任研究員)
14:05-14:35	講演3 「家畜生産現場で用いるための電気化学イムノセンサ」 岩崎 渉(製造技術研究部門生物化学プロセス研究グループ 研究員)
14:35-15:05	講演4 「水晶振動子を用いた免疫センサの開発」 愛澤 秀信(環境管理研究部門環境微生物研究グループ 主任研究員)
15:05-15:15	休憩
15:15-15:45	講演5 「免疫センサのセンシング界面構築」 田中 睦生(健康工学研究部門界面・材料研究グループ 研究グループ長)
15:45-16:15	講演6 「V溝バイオセンサーによる免疫アッセイ」 藤巻 真(電子光技術研究部門光センシンググループ 研究グループ長)
16:15-16:45	講演7 「表面科学を利用した免疫測定法の開発とそのマイクロデバイス化」 栗田 僚二(バイオメディカル研究部門ナノバイオデバイス研究グループ 研究グループ長)
16:45-16:55	総合討論
16:55-17:00	閉会の挨拶 小林典裕(神戸薬科大学大学教授、研究会会長)
17:30-19:30	情報交換会

■参加費: 会員; 3,000 円(要旨集込み)、非会員; 5,000 円(要旨集込み)、学生; 無料(要旨集 2,000 円)
情報交換会; 5,000 円(参加者のみ)